

3 経営学部

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

経営学部では、学生一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い教養と高い専門的知識を効果的に修得し、将来、民間企業や国・地方公共団体などの組織において活躍し、あるいは起業や事業承継を通じて社会に貢献できる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

1) 社会人としての幅広い教養と専門性

企業や各種団体、国・地方公共団体などの組織において活躍する、また自ら起業家として事業を創造、継承するために備えるべき経営学の専門的知識と一般教養を体系的に修得している。

2) 社会人としての課題解決能力

経営活動や組織運営等における課題を発見し、正確に把握・分析したうえで、専門知識を用いて論理的かつ創造的に思考し、仲間とともに協働することによって、これらの課題に果敢に取り組み、解決する能力を備えている。

3) 協働のためのコミュニケーション能力と行動力

多様な立場・考え方を認めたとうえで、自らの知識や考えを他者にわかりやすく伝え、周囲を説得できる説明能力、他者との協働を円滑に行えるコミュニケーション能力および行動力を備えている。

4) 社会の変化に対応できる自己実現力

和の精神に基づき、社会人として組織の期待や信頼に応えるための誠実な資質と高い倫理観を備え、与えられた役割に対しては使命感をもって遂行し、生涯にわたり、社会の変化に対応して自らを継続的に変革し、高めるために学び続ける意欲と姿勢を備えている。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

経営学部における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学に加えて法学の各領域の専門科目について、目標に応じて基礎分野から応用分野まで確実に修得できるように学年の進行に合わせて配置します。この体系的なカリキュラムから希望する進路に合わせて、自由に科目が選択できるように編成します。公務員として活躍するために必要な専門科目や企業人としての適性を発見するインターンシップを中心とするキャリア開発科目、多様な公的資格取得を支援する科目など、キャリア目標を達成するために必要な科目を学年に応じて段階的に配置します。

(2) 教育方法

1) 開講科目全般については、従来の講義形式に加え、ICTを効果的に活用し、学生と教員間、学生と学生間の双方向性ある授業を実施します。

2) 学生の将来の進路を見据えた特徴ある科目を専攻ごとに基本から実践まで設けます。公共経営専攻では、公務員として必要な知識を習得する演習科目である「公務員基礎演習」「行政職特別演習」に加えて、「公務員特別演習」等の演習科目を設け、企業経営専攻では将来のキャリアを見据えた演習科目として「キャリア演習」「インターンシップ」を必修化し、適性の向上を図ります。

3) 公的資格(簿記、FP、販売士、PC検定、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等)を、無理なく段階的に取得するための支援授業を体系的に配置します。

4) 体験型、地域連携型科目を数多く設け、またゼミナールや授業外プロジェクトを通じて積極的かつ継続的なアクティブ・ラーニングを効果的に行うことによって、学生自らが課題を発見し、能動的に情報収集・調査・分析・発表・議論・研究できる環境を整えます。

(3) 学修成果の評価方法

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

経営学部では、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を求める条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

1) 高等学校の教育課程を幅広く修得しており、将来、経営や法律に関する専門知識や経験を社会で活かしたいという意欲があること。

〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

2) 将来、企業人や公務員としてさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようとする高い就業意欲や使命感があること。

〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

3) 高等学校等での課外活動やボランティア活動などの経験があり、グループ学習などでは他者と協働しながら課題をやり遂げ、発表・報告時には、論理的に説明できること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力・表現力、表現力〕

4) 入学後、建学の礎である聖徳太子の「和」の精神の理解に努め、他者を思いやり、周囲との協働を重んじて行動できること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、協働性〕